

会議の名称	議員定数・報酬等検討 特別委員会 議員定数分科会	開催月日・令和7年9月26日 開会時間・午前・午後01時30分 閉会時間・午前・午後02時00分
出席者	安藤 誠 佐藤 健 粟津 明 原 一郎 野口 佳宏 豊島 保夫	
欠席者		
オブザーバー		
傍聴者		
説明のために 出席した者	浅井議会総務課長	
協議事項	・議員定数について	

【開会＝午後 1 時 30 分】

豊島座長

議員定数分科会を開会いたします。本日の議題は議員定数についてです。

市民意見交換会の記録と市民アンケート結果はすでに配付しており、特別委員会において委員長からも報告がありました。それらを精読していただいたうえで、今後の進め方など、議員定数についてご発言はございますか。

議会総務課長

進め方ですが、この分科会として削減、現状維持、増員の方針をまず決めていただき、その結果によっては具体的な削減・増員人数まで結論を出していただきたいです。

野口委員

アンケートは非常に厳しいご意見をいただいておりまして、議員定数の議論に関わらず、しっかりと活動しなければいけないという思いがあります。

意見交換会の発表では、そこまで議員を減らしたほうがいいという意見がなかったので、どうしたらいいのだろうというところはあります。

私は当初から言っているとおり、今回のアンケートと意見交換会を経ても意見を変えずにいこうと思っています。

具体的には定数 2 人削減です。議員報酬と政務活動費は、定数を削減した分、上げていただけたらという考え方です。

1 人削減だと議長を除くと偶数になりますし、1 人削減したところで報酬と政務活動費は少ししか上げることができないと考えています。

また、議長交際費も上げたいと考えていて、その点も踏まえての考えです。

豊島座長

分科会ですので、意見を出していただくということで、本日、結論を出すわけではありません。

原委員

意見交換会ですが、私のグループも定数は現状維持または増員の人が多くて驚きました。全体的にもその方向の意見が多く、記録を見ても削減という意見はほとんどありませんでした。

しかし、アンケートは逆に厳しく、約 4 割が「多い」という話もありました。難しいことだと思います。しっかりと検討していきたいと考えております。

栗津議員

意見交換会では他市の状況を説明してくれたので、その

	<p>場にいた市民は驚いたと思います。なので定数も現状維持で、報酬も政務活動費も上げるべきだという意見でした。</p> <p>アンケートは、私が想像していたよりも定数削減の意見が少ないといました。アンケートもデータを提示していれば、少し違った結果になったかもしれません。</p> <p>定数はこのままで特に問題はないと考えます。その代わり、我々議員が市民に対してしっかりと活動していかなければいけません。</p>
安藤委員	<p>意見交換会のときに議員が減ると交付税が減ってしまうという意見がありましたので調べましたが、交付税は減らないということが分かりました。</p> <p>原委員と同じで、アンケートには厳しい意見もありますが、意見交換会では削減を求める方が見えなかつたので、私も慎重に考えさせていただきたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>市民アンケートの結果を踏まえますと、定数が多すぎるという回答が 44%で最多になっている状況から、削減しなければならないと思っています。</p> <p>人数に関しては、1人削減がよろしいかと思います。その理由は、今年、副市長の定数が2人に増員されました。それを含めて予算増になったわけで、議員はしっかりと監視していかなければいけない立場ですから、バランスで考えたときに1人削減の意見を維持していかなければよくないと思いました。</p> <p>今回のアンケートですが、回答率の低さが気になっています。回答率が 31.8%でした。なぜこんなに回答がないのか素朴な疑問があります。もう少し回答してもらいたかったところです。</p>
議会総務課長	<p>無作為抽出 1,000 人で回答率 31.8%というのは、一般的には十分に統計的価値がある数値です。</p> <p>ほかのアンケートと比べても、特に低いというわけではなく、むしろ少し多いほうだと思います。</p>
佐藤委員	<p>回答率は低いわけではないとのことで、よかったです。</p> <p>今回、アンケートの結果を細かく見ていくと、年代によって回答率が著しく異なっています。もし事務局でお持ちでしたら伺いたいのですが、年代別の回答の違いなどのデータは把握されておられますでしょうか。もあるようでしたら、お伝えいただけだと非常に参考になります。</p>

議会事務局	検討しておきます。
豊島座長	<p>市民意見交換会では、定数については平均的な人数のことや過去に定数を減らしてきた経緯などを、聞かれたら答えたところ、市民からは妥当ではないかという意見があったのではないかと思っています。</p> <p>アンケートについては、他市議会の定数と比較して添付すべきという意見を申し上げましたが、それは否決されました。私は他市の状況を見ていきたいという意見です。</p> <p>政務活動費は県内を見ただけでも両極端で、報酬は他自治体を意識した状況になっています。</p> <p>報酬は過去にマスコミが議員にアンケートをとられて、公表されました。そのときには国民の平均年収という観点から 4,500 万円と回答しましたが、何かしらの根拠が必要だと思います。</p>
野口委員	<p>まだ検討中の方がいらっしゃいます。明確になっているのは私と栗津委員と佐藤委員です。</p> <p>結論を決めて進めていかなければなりませんが、分科会としてはいつまでに結論を出さなければなりませんか。</p>
議会総務課長	<p>分科会としては 10 月 15 日までに結論を出す必要があります。11 月には議会としての結論を出さなければいけません。</p>
野口委員	<p>慌てさせるのはよくないですが、決めていただかなければなりません。</p> <p>ある程度決めて、来年度以降の条例改正などを進めていかなければならぬですから。</p>
佐藤委員	<p>分科会として決めるときは、過半数をもって決めるということになるのでしょうか。</p>
議会総務課長	<p>事務局としては、まず増員、現状維持、削減で多数決をとって、その後、具体的な人数について再度、多数決をとる方法を考えています。</p>
佐藤委員	<p>削減が過半数だった場合、削減に賛成した人だけで再度、人数の採決をとるということですか。</p>

議会総務課長	削減ではない意見の人も含めて再度、採決をとります。
栗津委員	議員報酬や政務活動費のことも考えて議論するんですか。それとも議員定数のことだけを考えればいいんでしょうか。
議会総務課長	政務活動費はほぼ決まっているので考慮できます。議員報酬はまだ分かりません。 ただし、分科会としての原案は特別委員会に出して、最終的には全議員で考えることになります。
栗津委員	野口委員は、報酬を上げるけれども市民を納得させるために定数は削減するという考え方だと思いますが、経費削減のことを考えずに、羽島市議会として純粹に定数のことだけを考える方法でもよいのではないでしょうか。
野口委員	それでも結構ですが、私の考えは経費削減にはなっていません。予算の分配を変えるだけです。
豊島座長	そもそもこの特別委員会が設置された経緯やそれ以前から議員定数について議論してきた原因はどこにあるのか、何も通常時であれば議題や協議事項にもなってきていないはずです。その点についても確認していただいて進めなければと思います。 ほかにご意見はありますか。
	[発言する者なし]
豊島座長	先ほど 10 月 15 日までに分科会の結論を出してほしいという話がありました。10 月 1 日の閉会後に集まるということで、ご意見はありますか。
佐藤委員	私は意見が固まっているのに集まらなければならぬことに疑問があります。
	[「集まるのは当然です」と呼ぶ者あり]
豊島座長	広報広聴委員会の終了後に開催するということでいかがですか。
	[「異議なし」と呼ぶ者あり]

豊島座長	それではその際に、分科会でどのような意見が出たかとりまとめるということで。お疲れさまでした。 【閉会＝午後 2 時 00 分】
------	--